社 会

【共通問題】

1　江戸時代初めまでの歴史

〈解答〉(1)　**万葉集**☆☆　(2)　**ウ**☆☆

(3)　**御成敗式目**☆☆　(4)　**管領**(かんれい)☆☆　(5)　**イ**☆☆

(6)①　**D**☆☆　②　**B**☆☆

(7)　**あ　朱印状**☆☆　**い　日本町**☆☆

(8)　**1年おきに江戸と領地を往復しなければならず、多くの出費となったから。**☆☆

(2)　**ウ**の六波羅探題が京都に設置されたのは、鎌倉時代の承久の乱（1221年）ののちのことである。**ア**は12世紀後半、**イ**は8世紀末～9世紀初め、**エ**は11世紀初めごろのできごとで、いずれも年表中のBの期間にあてはまる。

(4)　室町幕府では、将軍の補佐役として管領が置かれた。管領には、細川氏など足利氏一門の有力な守護大名が任命された。

(5)X（正）　室町時代には、各地で土一揆が起こった。土一揆は惣(そう)の農民が中心となって起こした一揆で、領主に対して年貢の引き下げを要求したり、幕府に徳政令の発布を要求したりした。

Y（誤）　全国統一を果たしたのちに朝鮮半島に大軍を送ったのは豊臣秀吉である。

(6)　①は1517年、②は1096年のできごとである。

(8)　参勤交代は、江戸幕府3代将軍の徳川家光のときに武家諸法度に加えられ制度化された。大名は1年おきに江戸と領地を往復することや、妻子を江戸に居住させることが定められた。大名は、往復の費用や江戸での生活のために多くの出費を強(し)いられ、経済的に大きな負担となった。

2　世界と日本の地理

〈解答〉(1)①　**う**☆☆

②　**暖流の北大西洋海流の上を吹く偏西風が暖かい空気を運んでくるから。**☆☆

③　**12(月)9(日)午前1(時)**☆☆

④　**アボリジニ**☆☆

⑤　**サンベルト**☆☆　⑥　**ア**☆☆

(2)①　**南(緯)36(度)・西(経)40(度)**☆☆

②　**ウ**☆☆

(3)①　**ウ**☆☆　②　**740 m**☆☆

(1)①　緯線と経線が直角に交わるようにえがかれた地図では、経線が互いに平行に引かれているが、実際には緯度が高くなるほど経線の間隔は狭くなる。このため、赤道に平行に引かれた、地図上での長さが等しい線分の実際の距離は、緯度が高くなるほど短くなる。したがって、**あ～え**のうち、実際の距離が最も長いのは、赤道上に位置する（＝緯度が0度）**う**である。

②　イギリスの首都ロンドンは、暖流の北大西洋海流の上を吹く偏西風が暖かい空気を運んでくる西岸海洋性気候の地域に位置している。このため、北海道の網走より高緯度であるにもかかわらず、冬の月別平均気温が網走より高い。

③　地図中の経線の間隔は等しく、0度の経線と180度の経線の間に11本の経線が引かれているので、経線の間隔は15度である。したがって地図中のBの国（南アフリカ共和国）の標準時の基準となる地図中のXは東経30度の経線で、日本の標準時の基準となる東経135度の経線との経度差は、135(度)－30(度)より105度である。地球は1日で360度回転するので（自転）、360(度)÷24(時間)より、経度15度ごとに1時間の時差が生じる。105(度)÷15(度)より、Bの国と日本の時差は7時間となる。本初子午線を基準にすると、日本の方がBの国よりも東にあるため、日本の時刻の方が進んでいる。よって、日本の時刻は12月9日午前1時となる。

⑥　人口密度は［人口］÷［面積］の式で計算する。表中の**ア**の国は約276人/km^2、**イ**の国は約49人/km^2、**ウ**の国は約3人/km^2、**エ**の国は約34人/km^2となるので、人口密度が最も高い国は**ア**となる。なお、**ア**の国は地図中のAのイギリス、**イ**の国は地図中のBの南アフリカ共和国、**ウ**の国は地図中のCのオーストラリア、**エ**の国は地図中のDのアメリカ合衆国である。

(2)①　ある地点から見て地球の中心を通って正反対の所にある地点（対蹠(たいせき)点）の緯度・経度は次の通りである。

・緯度の数値は元の地点と等しく、北緯と南緯が逆になる。

・経度の差は180度である。

よって、およそ北緯36度、東経140度に位置する東京の対蹠点は、およそ南緯36度、西経40度（東経を西経に変え、数値は180度から140度を引く）の地点となる。

②　問題の地図は、中心にある東京からの距離と方位が正しくなる図法（正距方位図法）でえがかれている。

ア（正）　東京から見て北の方角が真上になるようにえがかれているので、東京の左下にあるシンガポールは南西の方角になる。

イ（正）　東京から真北の方角に直進して地球を

一周するときの経路は、東京を通って縦にまっすぐ引いた直線で示されるので、アフリカ大陸は通過しないとわかる。

ウ（誤）　この地図で外周円として示されている地点は、東京から見て地球の正反対の所にあるので、その距離は地球の半周分である。地球の全周を 40000km としたとき、東京から外周円までの距離は 20000km となるので、南極大陸を含む地図上のすべての地点は東京からの距離が 20000km 以内ということになる。

エ（正）　地図上のYの線はアフリカ大陸の真ん中あたりやシンガポール付近を通っているので、0度の緯線（赤道）である。したがって、この線で囲まれた地域はすべて北半球に含まれる。

⑶①　∨は畑、Ϙは広葉樹林を示す地図記号である。なお、針葉樹林の地図記号は∧、果樹園の地図記号はϽである。

②　bの地点の南側に「700」という表示がある。これは標高 700m を示す計曲線（太い等高線）である。また、北側には「820」の表示も見られる。このことから、bの南側の方が北側よりも標高が低いとわかる。2万5千分の1地形図では、50m ごとに計曲線、10m ごとに主曲線（細い等高線）が引かれているので、bの地点と「820」の地点の間に2本ある計曲線はbの地点から近い順に 750m、800m である。よって、750m の計曲線より 10m 低い主曲線上にあるbの地点の標高はおよそ 740m である。

【選択問題】タイプ 01

3　江戸時代の日本と世界

〈解答〉⑴　清☆☆　⑵　いわし☆☆　⑶　ア☆☆
⑷　蔵屋敷を置いた☆☆
⑸　エ☆☆

⑴　1368 年から 300 年近く続いた明が 1644 年に滅亡すると、これに代わって清が中国を支配するようになった。江戸幕府と清との国交は実現しなかったものの、貿易は盛んに行われ、長崎に唐人屋敷が設置された。

⑵　江戸時代の日本では、農業・漁業・鉱業・手工業などの諸産業が発達した。漁業では、九十九里浜（千葉県）のいわし漁、土佐（高知県）のかつお漁などが知られる。九十九里浜で大量にとれたいわしは乾燥させて干鰯（ほしか）という肥料に加工された。干鰯や油かす（菜種などから油をしぼったかす）は、お金を払って購入する効果の高い肥料で、農業生産力向上の1つの要因となった。

⑶　石見銀山は、現在の島根県に位置し（地図中のア）、戦国時代から江戸時代前期にかけてとくに多くの産出量をほこり、産出された銀は海外にも輸出（いく）されていた。なお、イは生野銀山、ウは佐渡金山、エは足尾銅山の位置を示している。

⑷　大阪は豊臣秀吉の時代に町人の町として発展した。江戸時代になると大阪には諸藩の蔵屋敷が置かれ、全国から年貢米や特産品が集まるようになり、盛んに取り引きが行われた。こうして全国の商業や金融業の中心地となったことから、大阪は“天下の台所”とよばれるようになった。

⑸e　元禄文化の時期に活躍した浮世草子の代表的作家である井原西鶴は、『世間胸算用（せけんむねさんよう）』などの作品を残した。なお、松尾芭蕉は俳諧を和歌と対等の文学にまで成長させた俳人で、『奥の細道』を著した。

f　元禄文化の時期に活躍した菱川師宣は、民衆の風俗を題材にえがく浮世絵を始めた。なお、尾形光琳も元禄文化を代表する画家の1人で、「燕子花図屏風（かきつばたずびょうぶ）」などをえがいた。

【選択問題】タイプ 02

3　九州地方の地理

〈解答〉⑴　イ☆☆　⑵　ハザードマップ☆☆
⑶　促成栽培☆☆
⑷①　シラス台地☆☆
②　水を通しやすいから。☆☆

⑵　自然災害による被害を完全になくすのは困難であるが、被害を最小限に食い止めるためにさまざまな対策がとられている。その一環として、災害時の被害予測や避難経路、防災のための準備などを示したハザードマップ（防災マップ）が、住民の防災意識を高めるため各地で作成されている。

⑶　地図中のCの宮崎平野では、冬でも温暖な気候を生かし、ビニールハウスなどを利用してきゅうりやピーマンなどの野菜の生育を早め、他の産地より早い時期に出荷する促成栽培が盛んである。

⑷　鹿児島県から宮崎県南部にかけての地域には、火山灰が積もってできたシラス台地が広がっている。シラス台地は水を通しやすく、雨が降ってもすぐに乾いてしまうことから、本来、稲作などの農業には適していないが、江戸時代には、乾燥に強いさつまいもが栽培されるようになった。さらに第二次世界大戦後の 1950 年代から笠野原などで大規模なかんがい事業が進められ、現在ではピーマンをはじめとする野菜や茶などの栽培が盛んに行われている。